

公共施設のあり方を考えよう！

問い合わせ先 財産管理課 28-6167

シリーズ 第1回
公共施設の現状と課題

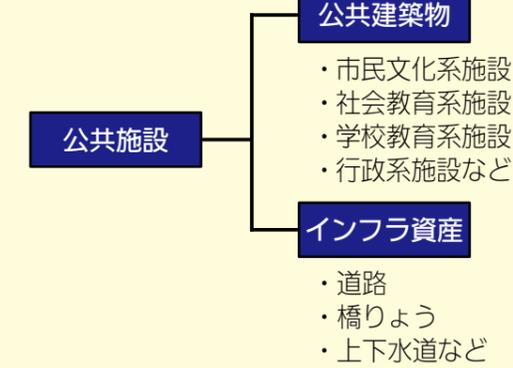
公共施設とは：
公共施設とは、国や県、市町村が建設する施設で、本市では、学校や公営住宅、文化施設などのいわゆる「ハコモノ」と呼ばれるものだけでなく、道路や橋などのインフラ資産も含め公共施設と捉えています。

これらの公共施設は、学習・交流・生活・手続きなどをする場として活用され、市民の暮らしを支える大切な役割を担っています。

将来に負担を残さない行財政運営に～拡充から縮充へ～

今後、40年間で約2000億円。これは何の数字を表しているのでしょうか？
市が所有する学校や公営住宅などの建物を建て替えたり、改修したりした場合にかかる費用です。
市の公共施設は今、大きな転換期を迎えています。

公共施設の構成図



本市の公共施設の現況と課題
人口減少・少子化・超高齢社会を迎え、社会構造が大きく変化している中

で、それに伴う生産人口の減少や地方交付税の削減などにより地方財政が行き詰ってきています。
また、高度経済成長期に大量に建設された施設の老朽化が進み、公共施設やインフラ資産が一斉に改修・更新時期を迎え、多額の更新費用が必要になると見込まれています。

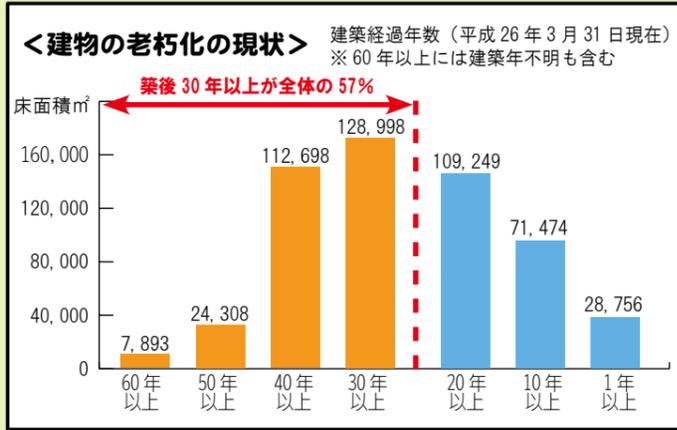
公共施設等総合管理計画の策定

現在、本市では、長期的な視点を持って公共施設などの長寿命化や施設の複合化・集約化なども含め、公共施設などの適正配置と有効活用及び財政負担の平準化を図るために、公共施設等総合管理計画の策定に取り組み、今年度中に公表する予定です。

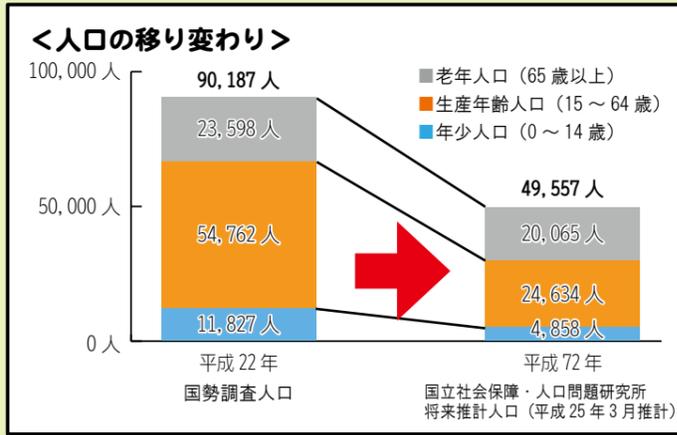
これから定期的に、公共施設のあり方に関連する情報をお届けし、将来に負担を残さない適切な行政サービスを提供し続けるためにも、市民の皆さまと一緒に、公共施設の更新問題について考えていきたいと思えます。

解決の考え方として、単なる施設面積の縮小という視点ではなく、施設規模の縮小を目指しつつも機能を充実する「縮充」という言葉をキーワードとして、さまざまな対応が考えられます。

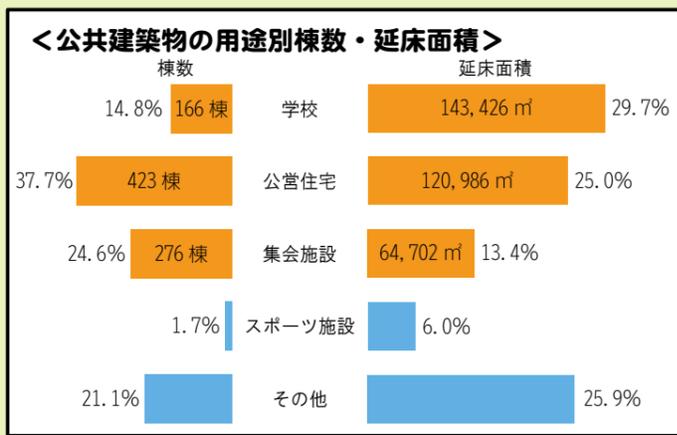
まずは、「建物の老朽化の現状」「人口の移り変わり」「公共建築物の用途別棟数・延床面積」「本市の財政状況」の現状について把握しましょう！



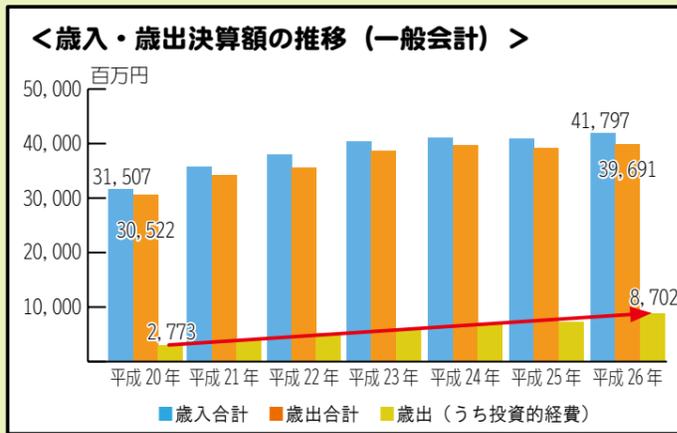
■公共施設などの老朽化が進んでいます！
築30年以上の建物が、全体の半数を超えて老朽化が進んでいます。
建物を改修したり、建て替えたりする時期が一齐にやってきます。
建物を維持更新していくには、莫大なお金がかかりますが、古くなった建物をそのままにしておく、安心して使うことができません。



■人口減少・少子化・超高齢社会を迎えています！
本市の人口は減少傾向にあり、平成72年には5万人を下回ると予想されています。
人口の減少や高齢化社会が進むと、公共施設の利用者の減少や年齢構成が変わるため、市民ニーズに合った公共施設のあり方を検討する時期がきています。



■公共施設が過剰になっています！
本市が所有する公共施設は、庁舎や小・中学校、公営住宅など、約600施設（50㎡以下を除く）あり、学校と公営住宅で全体の半数を超えています。
総床面積では約48万㎡、市民1人当たり換算すると5・38㎡で、全国平均3・22㎡と比較すると約1・7倍となっています。また、同規模自治体平均の3・56㎡と比較しても約1・5倍となっています。



■財政状況が厳しくなってきました！
本市の財政状況は、人口減少や人口構成の変化の影響で、市税の減収と扶助費の高止まりが予想されます。
今後、多くの公共施設などが改修時期または更新時期を迎えることとなります。このため、維持更新コストの増加に対して、必要な財源が不足することが予想されます。

※次回は、公共施設等マネジメントの取り組みについて紹介します

本市の老朽化が進む公共施設



学校給食センター



金生公民館



長津保育園